

第 68 回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

令和 8 年 3 月 10 日（火）13:00~15:00

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

鈴木部会長、片岡部会長代理、青木委員、石井満委員、石井（由）委員、井筒委員、佐藤委員、白坂委員（オンライン）、新谷委員、土屋委員（オンライン）

(2) 事務局

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 風木局長、渡邊審議官、西野参事官、猪俣参事官、奥田企画官

(3) 関係省庁

国家安全保障局 岡本審議官

内閣衛星情報センター 尾西調査官

総務省国際戦略局 扇課長

外務省総合外交政策局 有元主査

文部科学省研究開発局 島村課長補佐

経済産業省製造産業局 二川課長補佐

防衛省防衛政策局 高橋参事官、財部室長

(4) 有識者

宇宙航空研究開発機構第二宇宙技術部門 河田参与

ASTEC 鈴木事務局長、山本副事務局長

4. 議事要旨

(1) 議題 1 「宇宙安全保障に係る取組について」、防衛省及び内閣府から資料に基づき説明した後、次のような議論があった。

- 国際的な情勢が大きく変わっている中、日本の衛星が攻撃された場合において、特にグレーゾーンの事態などにおいて、どのような法的根拠に基づき対応していくのか検討・整理が必要ではないか。
- ターゲティングに用いる衛星は相手方の攻撃対象にもなり得る。民間衛星によりターゲティング情報を取得していく場合、補償についても契約などで定めることが必要である。
- 人口減少が叫ばれる中、新しい戦い方を実現させるためには、民間力の活用がますます重要になる。通信オペレーターなど、有事の際にも民間サービスを継続できる予備自衛官のような制度を検討していくべきではないか。

- (2) 議題2「宇宙安全保障に関する国際的な技術動向について」、ASTECCから資料に基づき説明した後、次のような議論があった。
- 従来の衛星開発では、時間とコストをかけて高性能なものを作る考えが主流だったが、現在は量産価格の高騰が問題になっている。今後は性能向上ばかりにとられず、開発スピードの向上とコストの低減を重視していくことも必要ではないか。
 - ダイナミックスペースオペレーションに関しては、技術実証を重ねながらこういった枠組みや法的根拠に基づいて実施していくのか検討が必要ではないか。
- (3) 議題3「令和7年度宇宙システム全体の機能保証強化のための机上演習の実施について」、内閣府から資料に基づき説明した後、次のような議論があった。
- このような演習は宇宙システムに不測事態が生じた場合における官民の連携を促進し、我が国のレジリエンスにもつながるため、今後も継続していくべき。
- (4) 議題4「第11回宇宙空間の安定的利用の確保に関する国際シンポジウム(NSPSシンポジウム)の開催について」、内閣府から資料に基づき説明した後、次のような議論があった。
- 本シンポジウムは国内外から有識者が多数参加しており、日本が宇宙空間のサステナビリティに関するシンポジウムを継続的に開催していくことで、本分野における日本のプレゼンスを高めることにもつながっている。
- (5) 議題5「日本成長戦略会議における宇宙分野の検討状況について」、内閣府から資料に基づき説明した後、次のような議論があった。
- 日本の勝ち筋については、戦略的な目標を設定しつつ、定量的な基準を示すなど逐次具体化を図ることが必要ではないか。

以上